

鹿児島地本だより

第40号

(令和2年 新年号)

発行元

自衛隊
鹿児島地方協力本部

印刷所

南日本出版株式会社



新年のご挨拶

自衛隊鹿児島地方協力本部長
1等海佐 高岩 俊弘

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては令和最初の新春を健やかに迎えることとお慶び申し上げます。本年度の自衛隊等募集も、昨年の7月1日に解禁されたから既に半年が経過しました。この間、最大数の志願者を得得できる9月の統一試験を見据えた募集活動を展開してきましたが、志願者は昨年度とほぼ同等でありました。これが成果「有」なのか「否」なのかは現時点では何とも言えませんが、確実に年度末に判明することとなります。昨年度から新たな広報施策に試行錯誤を重ねてきましたが、本年度初頭、新たに「防災講話」を中心とした、学校における出前防災授業等を事あるごとに宣伝してきました。この甲斐あってか、10月頃から高校等から講話の依頼が入るようになり、募集課長を中心として、制服で不特定多数の生徒の前で話ができる環境が整い



南大隅高校 防災講話(1.5.17)



おはら祭り(1.11.3)

つつあります。本年度統一試験には間に合いませんでしたが、これを継続することにより、次年度以降の現役高校生の入隊志願に繋がることを期待したいと思います。私は本年度「勝負に勝つ」を勤務方針として掲げました。勝負に勝つためには勝つための原因を作る必要があります。募集も同様で、よい企画が浮かべば何かしらの結果を生んで、それが成果へと繋がっていく。勝負事や募集活動はそうしたロジカルな因果関係によって成り立っています。そして勝負の世界にはもう一つ、「運」や「ツキ」というものがあります。このツキがいくつもの原理原則によって動き、その女神にそっぽを向かれると、勝つことは難しくなります。この運をよくするために、基本的には目的を持った日々の努力しかないと考えています。我々は引き続き努力していきます。



新年のご挨拶

自衛隊鹿児島地方協力本部後援会
会長 谷川 洋造

新年明けましておめでとうございます。自衛隊鹿児島地方協力本部後援会の皆様を始め、自衛隊鹿児島地方協力本部部員の皆様、防衛協力諸団体の皆様、謹んで新春のお慶びを申し上げます。昨年5月1日より、元号が平成より「令和」となり、天皇陛下が内外に即位宣言する「即位礼正殿の儀」が10月22日、国事行為として皇居宮殿で執り行われました。陛下は、玉座の「高御座」に立たれ「国民の幸せと世界の平和を常に願ひ、国民に寄り添いながら、憲法にのっとり、日本国及び日本国民統合の象徴としてのつとめを果たすことを誓います。」と述べられました。年頭にあたり、一言「挨拶申し上げます。旧年中は、自衛隊鹿児島地方協力本部後援会に対しまして、各関係機関・団体等から格段のご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。自衛隊鹿児島地方協力本部におかれましては、一昨年3月か

ら、高岩俊弘本部長の統率方針である「勝負に勝つ」のもと、部員総員が一丸となって、各分野で更なる飛躍と発展を揺るぎないものとしてこられたものと確信いたします。さて、わが国周辺地域を取り巻く安全保障環境に目を向けますと、北朝鮮は、昨年5月以降も日本海への短距離弾道ミサイルの発射が相次いでおり、3度に亘る米朝首脳会談や面会後も、核の小型化等、関連技術の高度化を図り、世界に脅威を与えております。また、日米韓の機密情報共有の要となっていた日韓軍事情報包括保護協定(GSOMIA)の失効が当面回避されたものの、韓国政府が協定継続を暫定措置としていることを踏まえれば、日本も国民の生命財産を守る主権国家としての防衛力のあり方を考える必要があります。また、中国は、我が国周辺海域において活動を活発化・活発化させており、南シナ海においては、力を背景とした一方的な現状変更を試みる行動を継続し、既成事実を進める等、わが国を取り巻く安全保障環境は、様々な課題や不安定要因がより顕在化・先鋭化してきております。このように厳しい環境情勢の中、わが国では昨年9月、第4次安倍内閣が成立し、長期の安定政権のもと、憲法改正論議を始め、防衛力の充実へ向けたあらゆる政策を推し進めていただく事を期待しております。また、国内に目を向けると、自衛隊は昨年夏に発生した豪雨災害、台風15号、19号、21号に伴う大規模水害や大規模停電災害を始めとした各種の甚大な自

然災害等の発生に際しては昼夜を問わず日頃の厳しい訓練の成果をいかんなく発揮して迅速に対応し人命救助、生活支援及び民生の安定に寄与していただきます。また、新たな防衛力整備の指針の防衛計画の大綱でも、防衛力の中核である自衛隊員の人材確保と能力、士気の向上は、防衛力の強化に不可欠であり、政府も充実・拡充に急がねばなりません。自衛隊が各種任務を遂行するためには、激動する国際環境の変化の中で、これを下支えする人的基盤を安定的に充実・強化すること、国民一人ひとりと、そして地方公共団体等の理解と協力が不可欠であると考えます。

このような中、自衛隊鹿児島地方協力本部は、各関係機関・団体や後援会各位のご理解とご協力のもと、自衛官の募集及び採用、退職予定隊員の就職の援助、予備自衛官等の管理、広報活動等の各種任務において、各自治体等をはじめ国民の皆様との良好な関係を維持・強化し、防衛基盤の拡充を積極的に推進し、着実に実績を積み上げてまいりました。自衛隊鹿児島地方協力本部後援会におきましても、地方協力本部と一体となつて、国家の平和と国民の安全安心を願う国民の皆様に対し、わが国の防衛及び自衛隊に関する理解の深化に努め、防衛省・自衛隊との架け橋となるよう、なお一層努力して参る所存であります。つきましては、自衛隊鹿児島地方協力本部後援会の今後更なる充実・発展のためにも、各関係機関・団体の皆様方の新規会員の加入に対するご協力を切にお願い申し上げます。最後にになりましたが、自衛隊鹿児島地方協力本部の益々のご発展と部員並びにご家族の皆様、後援会会員の皆様、そして防衛協力諸団体の会員の皆様方のご健勝とご多幸を祈念して、新年の挨拶とさせていただきます。

また、新たな防衛力整備の指針の防衛計画の大綱でも、防衛力の中核である自衛隊員の人材確保と能力、士気の向上は、防衛力の強化に不可欠であり、政府も充実・拡充に急がねばなりません。自衛隊が各種任務を遂行するためには、激動する国際環境の変化の中で、これを下支えする人的基盤を安定的に充実・強化すること、国民一人ひとりと、そして地方公共団体等の理解と協力が不可欠であると考えます。

令和元年度

感謝状贈呈

防衛省・自衛隊に対してご支援を頂いた左記の方に感謝状を贈呈いたしました。(敬称略)

陸上幕僚長表彰
(就職援助功労)
霧島木質燃料株式会社

西部方面總監表彰
(一般功労)
春田 宗徳(前鹿児島県防衛協会青年部会直前会長)

(就職援助)
学校法人都筑教育学園
有限会社古川事業所サービス

(予備自衛官等雇用功労)
百年リビング工務店
原口防災

(募集功労)
学校法人川島学園鹿児島実業高等学校
鹿児島県立川内高等学校

第8師団長表彰
(一般功労)
池田 忠和(瀬戸内町自衛隊家族会)
叶 秀光(奄美市名瀬隊友会会長)

(就職援助功労)
鹿児島荷役海陸運輸株式会社
日本アルコール物流株式会社

(就職援助功労)
株式会社入来運送
株式会社佐々木組
有限会社松尾運送
学校法人志學館学園
株式会社IHIビジネスサポート

(募集功労)
松尾 幸男(自衛隊家族会会長)
長 浩己(瀬戸内町自衛官募集事務担当者)
梶屋 良幸(種子町自衛隊家族会会長)
外園 修三(鹿児島市自衛官募集相談員)
志築 雄一(伊佐市自衛官募集相談員)
榎元 京子(いち串大野市役所市民課課長)
辻 保貴(西之表市自衛官募集事務担当者)
篠田 榮一(志布志市有明町自衛官募集相談員)
貞 優樹(徳之島町自衛官募集事務担当者)
川越 洋(大崎町自衛官募集事務担当者)
日高 雅俊(中種町自衛官募集事務担当者)
小原 茂(鹿児島市自衛官募集相談員)
笹川 優太(屋久島町自衛官募集事務担当者)
古市 剛(川辺町自衛官募集相談員)
國本 かよ子(鹿児島市自衛官募集相談員)

(募集功労)
鹿児島県立奄美高等学校
鹿児島県立立川内高等学校
鹿児島県立立屋農業高等学校
霧島市立国分中央高等学校
学校法人神村学園 高等学校

(募集功労)
鹿児島県立立川内高等学校
鹿児島県立立屋農業高等学校
霧島市立国分中央高等学校
学校法人神村学園 高等学校

(募集功労)
鹿児島県立立川内高等学校
鹿児島県立立屋農業高等学校
霧島市立国分中央高等学校
学校法人神村学園 高等学校

(募集功労)
鹿児島県立立川内高等学校
鹿児島県立立屋農業高等学校
霧島市立国分中央高等学校
学校法人神村学園 高等学校

(募集功労)
鹿児島県立立川内高等学校
鹿児島県立立屋農業高等学校
霧島市立国分中央高等学校
学校法人神村学園 高等学校

(募集功労)
鹿児島県立立川内高等学校
鹿児島県立立屋農業高等学校
霧島市立国分中央高等学校
学校法人神村学園 高等学校

(募集功労)
鹿児島県立立川内高等学校
鹿児島県立立屋農業高等学校
霧島市立国分中央高等学校
学校法人神村学園 高等学校

(募集功労)
鹿児島県立立川内高等学校
鹿児島県立立屋農業高等学校
霧島市立国分中央高等学校
学校法人神村学園 高等学校

(募集功労)
鹿児島県立立川内高等学校
鹿児島県立立屋農業高等学校
霧島市立国分中央高等学校
学校法人神村学園 高等学校

(募集功労)
鹿児島県立立川内高等学校
鹿児島県立立屋農業高等学校
霧島市立国分中央高等学校
学校法人神村学園 高等学校

(募集功労)
鹿児島県立立川内高等学校
鹿児島県立立屋農業高等学校
霧島市立国分中央高等学校
学校法人神村学園 高等学校

(募集功労)
鹿児島県立立川内高等学校
鹿児島県立立屋農業高等学校
霧島市立国分中央高等学校
学校法人神村学園 高等学校

(募集功労)
鹿児島県立立川内高等学校
鹿児島県立立屋農業高等学校
霧島市立国分中央高等学校
学校法人神村学園 高等学校

※「鹿児島地本」は「自衛隊鹿児島地方協力本部」の略称です。

令和元年下半期 鹿児島地本写真集



掃海艇「ししじま」艦艇広報9月15日(いちき串木野市)



潮風フェスタ9月7、8日(鹿児島市)



潮風フェスタ9月7、8日(鹿児島市)



鹿児島市市街地広報8月11日(鹿児島市)



自衛隊みなと祭り7月20、21日(鹿児島市)



自衛隊みなと祭り7月20、21日(鹿児島市)



お仕事テーマパーク 11月17日(奄美市)



土木フェスタ 11月16日(鹿児島市)



ミサイル艇「しらたか」艦艇広報 11月12日(喜界島)



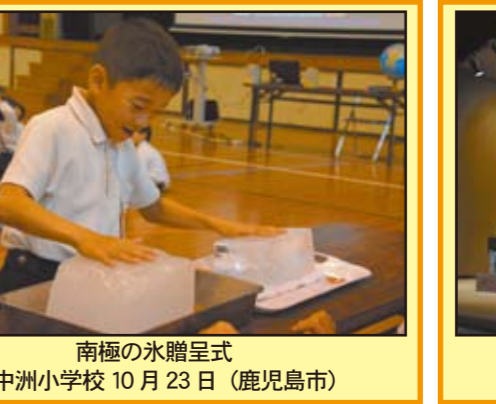
ずんばいよか祭り 11月4日(鹿児島市)



おはら祭り 11月3日(鹿児島市)



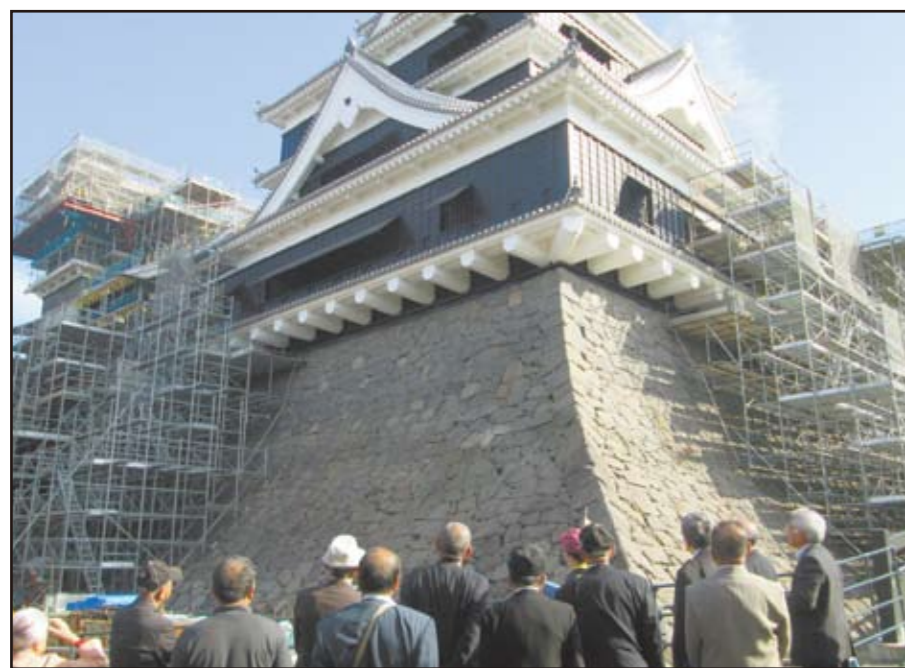
おはら祭り 11月3日(鹿児島市)



南極の水贈呈式 中洲小学校 10月23日(鹿児島市)



陸上自衛隊第8音楽隊 演奏会 10月17日(出水市)



現地研修(復旧が進む熊本城見学)の様子

鹿児島地本では、11月9日(土)及び10日(日)の2日間、熊本市内において行われた令和元年度隊友会九州・沖縄ブロック研修会熊本大会に参加する鹿児島県隊友会を支援しました。

本研修会は、九州・沖縄地区における自衛隊と各県隊友会の相互交流を図ることを目的に、毎年各県持ち回りで行われているものであり、今年度は熊本県で開催され、鹿児島県隊友会からは宮口会長、村山九州・沖縄地区執行役等21名が参加されました。

17日の研修会及び西部方面総監の防衛講話に引き続き行われた意見交換会には、大分県知事、国会議員をはじめ多くの来賓及び西部方面総監等陸海空高級幹部ご出席のもと盛大に開催され、各部隊・地本の指揮官等及び実務担当者が隊友会会員と活発な意見交換を交わす中で、久しぶりの再会に思い出話に花が咲いている光景もあり、終始和やかな雰囲気で行われました。

晴天に恵まれた翌10日は、現地研修として熊本城の見学が行われ、熊本地震の被害から復旧が進み堂々とした姿を取り戻しつつある大小守閣や石垣が積み重なった大天守石垣を目にし、会員の一人は「刻々と進む復旧作業の現場は今しか見ることができない貴重な光景。本当に見れて良かった。」と話されていました。

今回、援護課員3名が支援を実施しましたが、鹿児島県隊友会会員の方々には、日ごろから地域と自衛隊の架け橋として活躍をいただくとともに、自衛隊の各種活動にご支援ご協力をいただいております。自衛隊鹿児島地方協力本部は、今後とも鹿児島県隊友会とあらゆる機会を通じて連携を深め、自衛官募集及び予備自衛官の志願拡大につなげていきます。

援護 令和元年度隊友会九州・沖縄ブロック研修会熊本大会支援



鳳凰高校での防災講話の様子(1.10.23)

鹿児島地本では、令和元年度の重点施策として、防災に焦点を当てた学校教育の支援に力を注いでいます。この取り組みは、これまで学校説明会が実施できていない学校や実施に至っても志願者のみに限定された説明会ができていなかった学校に対して、自衛隊の強みである防災という観点から、これを突破口に自衛隊に関心を持っている者だけでなく、不特定多数の生徒に自衛隊を知り、将来の職業選択の一助としてもらうことでもあります。

近年、多発する大規模災害等の発生により、学校等の防災意識も高まっており、また、最近では総合学習の時間があり、防災に対して関心を示す学校等も増えています。

これまで、5月17日の南大隅高校を皮切りに鹿児島女子高校PTA、大隅中学校、枕崎小原病院、鳳凰高校、甲南高校、吾平中学校、田代中学校、瀬々串小学校・大口高校と多くの学校等から授業・講話の依頼を受け、支援を実施してきました。これからは同様の依頼は増えるものと予想しています。

参加者からは、「自助・共助・公助」という災害に対する考え方が理解できた。「災害への備えの重要性が分かった。」等の声が寄せられました。

鹿児島地本は、今後も学校等の防災教育に協力し、青少年の健全な育成に寄与しつつ、募集につなげていきます。



南日本新聞に掲載(1.5.21)

募集 学校教育への参画



陸運事業の説明



インターンシップの様子(鹿児島荷役海陸運輸) 海運事業の説明

鹿児島地本では、令和元年10月15日(火)から17日(木)の間、鹿児島市及び南九州市の3社の企業において、「令和元年度第2回若年定年制隊員インターンシップ」を実施しました。

本インターンシップは、定年3年前から1年半前までの間で業務管理教育を受講した隊員を対象とし、再就職先となる職域の拡大、再就職者の早期離職防止を図るとともに、受入企業に対し自衛官の有用性を周知させることを目的とし、今回退職を2年後に控えた隊員1名が参加して実施しました。

初日の鹿児島荷役海陸運輸株式会社では、元自衛官5名と懇談を行い、現在の業務内容の説明や再就職にあたっての心構え、事前に取得していたほうがよい資格の話などを聞いた後、高圧ガスの輸送車両、自動車整備工場、自社貨物船の荷役作業等を見学しました。2日目は、オートバックス鹿児島城南店において会社概要の説明を受けた後、小売店舗や自動車整備工場でのビットサービス等の研修を実施、また最終日の南薩食鳥株式会社では、午前中鶏の処理施設を見学した後、肉処理の業務体験、午後から加工施設を見学した後加工処理の業務体験を行いました。

参加隊員からは、「自衛隊OBの話が聞いて良かった。経験や資格がなくても何とかなるそうだし」、「定年退職後の就職に向けて貴重な良い経験ができた」、受入企業からは、「参加隊員の再就職に対する積極性を感じた。今回のインターンシップを再就職のきっかけにしてほしい」、「採用した隊員は皆頑張っており、今後もインターンシップを積極的に受け入れたい」等の声が聞かれました。

鹿児島地本は、本インターンシップが隊員に企業等での研修及び業務体験を通じて民間企業等の実態を理解させ、再就職に向けた準備を適切に行うことができ、受入企業にも退職予定隊員の有用性を知っていただける極めて有益な機会であると考え、今後も参加者の増加を図るとともに再就職への不安を払拭し、就職支援業務を着実に推進していきます。

援護 第2回若年制隊員インターンシップを実施

◆研修で入隊予定者の不安を解消◆



鹿児島募集案内所

10月28、29日、幹部候補生学校(前川原)主催の入隊予定者に対する研修を支援しました。研修では、学校長講話、校内及び訓練等見学、在学生との懇談等が行われ、研修後、入隊予定者からは「訓練等を見て、モチベーションが上がりました。」等、前向きな声聞かれました。

◆イオンタウン始良で募集広報◆



国分地域事務所

9月1日(日)イオンタウン始良で実施された防災フェスタに広報ブースを開設し、災害派遣で使用される軽装甲機動車やオートバイを展示しました。地域住民へ防災の認識を高めてもらい、制服試着も実施し、自衛隊を身近に感じてもらうことができました。

◆再就職にむけて◆



国分援護センター

8月28、29日に国分駐屯地で任期制隊員への就職補給教育を支援しました。参加した隊員は、ビジネスマナーを学ぶとともに、熱心に面接練習の実習に取り組みました。今後も隊員が安心して再就職できるように支援していきます。

◆奄美大島でラジオ広報◆



奄美駐在員事務所

8月15日(木)、夏季休暇で帰省していた地元出身隊員4名(新入隊員)とともにラジオ広報を行いました。エフエムせとうちのパーソナリティの供利義也さんと軽快なトークを交えながら新入隊員の自衛隊での話を行い、地元住民にPRしました。

◆ふるさとでパレード行進◆



種子島駐在員事務所

8月11日(日)南種町でロケット祭に中種子町・南種町出身の新入隊員7名が参加しました。パレード行進ではそれぞれの制服・迷彩服姿になり、成長した凛々しい姿のお披露目の場になりました。家族、知人、住民から多くの声援をもらい、自衛隊の認知向上へ繋がりました。

こんにちは
ワッワッです。



令和元年度南極の氷贈呈式

広報班



1.9.13 境小学校(垂水市)



1.10.7 鴨池小学校(鹿児島市)



1.10.16 片泊小中学校(三島村)

鹿児島地本は、第60次南極観測支援を終えた海上自衛隊砕氷艦「しらせ」の持ち帰った「南極の水」を活用した「南極の氷贈呈式」を9月13日(金)垂水市立境小学校(全校生徒10名)、10月9日(水)鹿児島市立鴨池小学校(全校生徒568名)、同月16日(水)三島村立片泊小中学校(全校生徒20名)、同月23日(水)鹿児島市立中洲小学校(全校生徒347名)において実施しました。

どの小学校の生徒も、南極の話詳しく聞くのは初めてというようであり、興味津々で話を聞いていました。南極の大きさが鹿児島島の約1500倍であること、日本の何倍

であるか、ペンギンは世界で何種類かといった質問をしたところ元気よく答えてくれました。実際に「氷に触れる体験」の時間になると、待ちきれなかったと言わんばかりに水目がけて向かってきました。南極の水と通常の氷の違いを体験してもらった

め、南極の水と同様の大きさの通常の氷を用意し、その違いを目で確認するとともに、氷に耳を近づけ、氷の中の気泡(数万年前の空気?)が割れる音を体感してもらいました。また、氷に触る順番待ちの子供達が、南極での食生活や、生活など多彩な質問をしてきましたが、中には、制服についている記章や、

自衛隊ってどんなことをしているのかたずねる子供もおり、これは「南極の水贈呈式」を通して自衛隊に興味を抱けることができた

鹿児島地本 QRコード

鹿児島地本 検索

お問い合わせ先

本部	郵便番号	住所	電話番号
自衛隊鹿児島地方協力本部	890-8541	鹿児島市東郡元町4番1号 鹿児島第2地方合同庁舎内	099-253-8920 (代表)

事務所名	郵便番号	住所	電話番号
鹿児島募集案内所	890-0045	鹿児島市武1-10-15 田中ビル2F	099-251-7802
知覧分駐所	897-0302	南九州市知覧町郡6204 南九州市役所内	0993-83-1811
薩摩川内出張所	895-0024	薩摩川内市鳥追町5-1 ヤマトビル2F	0996-22-2401
国分地域事務所	899-4332	霧島市国分中央6-1-5	0995-45-1836
鹿屋地域事務所	893-0064	鹿屋市西原4-5-1 鹿屋合同庁舎内	0994-42-4386
大隅地域事務所	899-8102	曾於市大隅町岩川6491-2 大隅合同庁舎内	099-482-1405
奄美大島駐在員事務所	894-0023	奄美市名瀬永田町17-3 鹿児島県大島支庁別館2F	0997-53-9103
種子島駐在員事務所	891-3101	西之表市西之表16314-6 種子島合同庁舎内	0997-23-0299
徳之島駐在員事務所	891-7101	大島郡徳之島町亀津53-1 徳之島合同庁舎内	0997-83-3080

令和元年度自衛官等募集案内

採用種目	受付期間	試験期日	合格発表	受験資格
自衛官候補生	第7回: 12月1日(日)~ 1月13日(月)	1月25日(土)	2月7日(金)	採用月の1日現在18歳以上33歳未満の者 ただし、32歳の者にあっては、採用予定月の1日から起算して3月に達する日の翌月の末日現在、33歳に達していない者に限る。
	第8回: 1月20日(月)~ 2月17日(月)	2月29日(土)	3月6日(金)	
高等工科学校生徒	推薦 11月1日(金)~ 29日(金)	1次試験: 1月5日(日)6日(月)の 内1日が指定されます。	1月16日(木)	男子で中卒(見込含む)令和2年4月1日現在17歳未満の者 成績優秀かつ生徒会活動等に顕著な実績を修め、学校長が推薦できる者
	一般 11月1日(金)~ 1月6日(月)	1次試験:1月18日(土)	1月24日(金)	男子で中卒(見込含む)令和2年4月1日現在17歳未満の者

人事往来 紹介

転出者

- 自衛官**
- 陸曹長 中園 久美子
募集課から第8施設大隊(川内)へ
- 1等陸曹 秋丸 博文
援護課から第5地对艦ミサイル連隊(健軍)へ
- 1等陸曹 植村 健太郎
総務課から第12普通科連隊(国分)へ

転入者

- ①出身地(都道府県) ②趣味 ③何か一言(抱負など)

自衛官

- 1等陸尉 米盛 祥一
福岡病院(春日)から薩摩川内出張所へ
①福岡県
②温泉巡り、ラーメン巡り
③最後の勤務です。一人でも多くの入隊者獲得に向けて頑張ります。
- 1等陸曹 内田 尚宏
第12普通科連隊(国分)から鹿児島援護センターへ
①鹿児島県
②オートキャンプ
③一所懸命

事務官

- 江藤 将
西部方面総監部(健軍)から総務課へ
①福岡県
②テニス、ドライブ
③1日でも早く仕事に慣れて、初めての鹿児島県での勤務を楽しみたいです。

配置替

准陸尉 折口 強志
知覧分駐所から募集課へ

1等陸長 松山 勝良
援護課から知覧分駐所へ

定年退職者

- 1.7.23 鎌田 隆徳 退職時:陸曹長
1.8.12 有川 英寿 退職時:陸曹長

※お詫び 地本だより第39号で定年退職者で紹介した尾望氏は尾望隆徳でなく尾望功浩です。大変申し訳ございませんでした。